

『大造じいさんとガン』

場面・お話の内容

まえがき

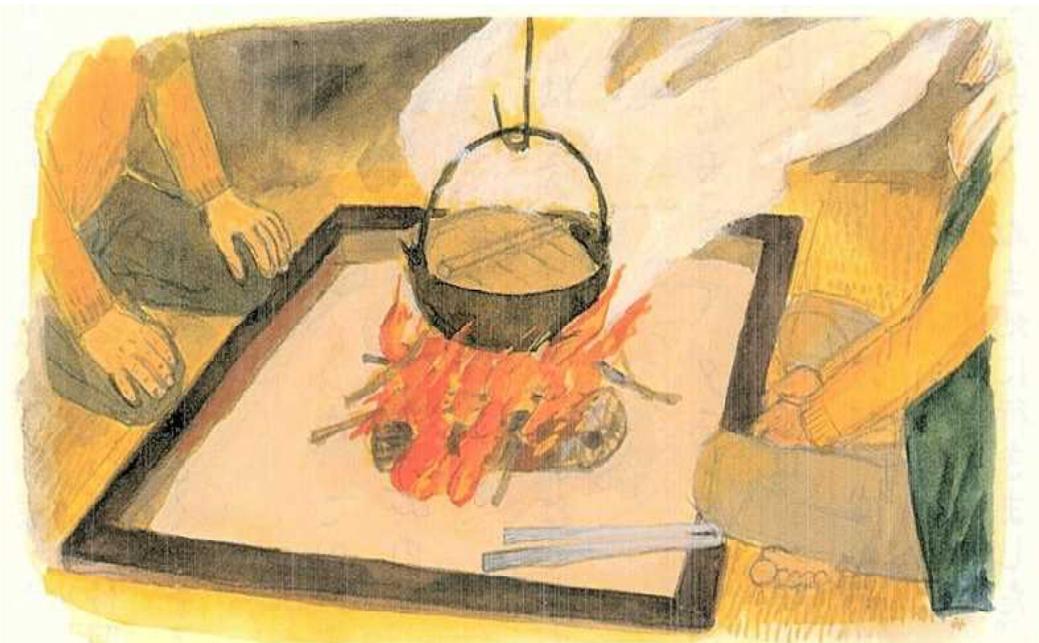
・知り合いのかりゅうどにさそわれて、わたしはイノシシがりに出かけた。

○わたし・・・作者（椋 鳩十）

・大造じいさんの家に集まった。

○大造じいさん・・・七十二さい。元気な老かりゅうど。話し上手。

・大造じいさんの三十五、六年前のガンがりの話。



『大造じいさんとガン』

場面・お話の内容

第1場面

・今年も、残雪は、ガンの群れを率いて、ぬま地にやって来た。

○残雪・ぬま地に集まるガンの頭領。りこうで、油断なく気を配って、決して人間を寄せつけない。

・大造じいさんは、残雪が来るようになってから、一羽のガンも手に入ることができなくなった。

・大造じいさんは、かねて考えておいた特別な方法に取りかかり、生きているガンが一羽手に入った。

・翌日は、一羽もかかっていなかった。残雪が、仲間に指導したにちがいない。



『大造じいさんとガン』

場面・お話の内容

第2場面

・翌年も、残雪は、大群を率いてやって来た。

・大造じいさんは、夏のうちに夕ニシを集めて、それを、ガンの好みに入りの場所になった。四、五日続くと、ガンの群れの、いちばんのお

・夜よるの間に、小さな小屋を作つくって、ガンの群れを待まちった。

・「あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目にも見せてくれるぞ。」

・残雪は、群れを率いてやってきて、昨日までの近づかぬがよいぞ。」

・またしても、残雪のためにしてやられた。



『大造じいさんとガン』

場面・お話の内容

第3場面

- ・今年もまた、ガンの来る季節になった。
- ・二年前、じいさんが生けどったガンは、すっかりなついていた。
- ・大造じいさんは、このガンをおとりに使って、残雪の仲間をとらえようと考え、その夜のうちに、飼いならしたガンをえさ場に放ち、ガンの群れを待った。
- ・残雪は、美しい朝の空をやって来て、えさ場下りた。
- ・ガンの群れを目がけて、ハヤブサが一と直線に落ちてきて、じいさんのおとりのガンが飛びおくれた。
- ・残雪の目には、救わねばならぬ仲間のすがたがあった。
- ・二羽の鳥は、はげしく戦い、残雪はむねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていた。
- ・大造じいさんは、強く心を打たれた。



『大造じいさんとガン』

場面・お話の内容



第4場面

・残雪は、大造じいさんのおりの中で、一冬をこした。春になると、むねのきずも治り、体力も元のようになった。

・ある晴れた春の朝、じいさんは、おりのふたを開けて、残雪は、一直線に空へ飛び上がった。

・「おうい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきよくなやり方でやつつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやつて来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」大造じいさんは、大きな声でガンによびかけた。

・いつまでも、いつまでも、見守っていた。

